

特別助成 東日本大震災復興関連のコミュニティ支援事業

「福島県への継続文化支援活動」事業

人形劇を中心とする文化的事業を通じた復興支援によって被災地の子どもたちに明るい笑顔を取り戻す

子どものためにより優れた舞台芸術を提供することを目的に設立された「札幌市こどもの劇場やまびこ座」と、全国初の公立人形劇場として誕生した「札幌市こども人形劇場こぐま座」では、子どもたちが元気を取り戻すことが周囲の大人や被災地の元気を取り戻すことにつながると考え、東日本大震災の被災地支援を続けている。



福島県内の幼保などを中心に「福島応援人形劇公演」を27回実施



鑑賞後、子どもたちは人形劇の舞台裏も見学

現地で求められる支援の形を見極めながら劇場使用団体などと支援プロジェクトを発足

「札幌市こどもの劇場やまびこ座」館長の矢吹英孝さんは、東日本大震災直後の2011年6月に福島市、郡山市、南相馬市などを中心に、東京電力福島第一原発事故の影響で放射線量が比較的高いエリアに足を運んだ。札幌市で舞台芸術や人形劇を提供する劇場として活動している自分たちが、現地の子どもたちのためにどんな支援ができるか、その形を探ることが目的だった。そこでは、当然のことながら子どもたちは外遊びができない状況が続いていた。行政や子どもたちを対象に活動を続ける市民団体、NPO法人、施設など、現地の関係者と話し合いを続ける中で、人形劇などの公演にとどまらず、「自分たちも一緒に加わって、相互交流という形で何かをしたい」という、支援に対する要望が出された。

そこで、矢吹さんたちは、子どもたちのために何かをしたいと思いつきながら悶々としていた、やまびこ座やこぐま座に出演している約40団体の劇団やアーティストに声をかけ、「やまびこ座・こぐま座東日本大震災復興支援プロジェクト」を立ち上げ、現地のニーズを最優先しながら、「福島県への継続文化支援活動」事業を始めることになった。

同プロジェクトがスタートしたのは、大震災翌年の2012年度のこと。やまびこ座、こぐま座での公演時において募金箱を設置し、義援金を募るほか、ゴールデンウィーク中に両劇場で実施してきた特別企画を東日本大震災チャリティ公演として実施し、そのほか毎年、事業実施に向けた打ち合わせや現地調査を踏まえたうえで、福島県内での人形劇や伝統人形芝居の上演を中心に、様々な支援活動を展開してきた。

社会に対する自らの役割を見つめ直しつつ継続的に頻度・密度の高い支援事業を実施

昨年度、AJOSCの助成を受けた同プロジェクトでは、福島市、二本松市、郡山市、川俣町などの幼稚園、保育園、学童保育、公共施設、復興住宅などで「福島応援人形劇公演」を27公演（入場者・参加者数2,300名）、地域交流事業である「あそびの劇場～札幌のやまびこ座・こぐま座からあそびのキャラバン隊がやってくる～」を3回（同933名）、人形浄瑠璃体験ワークショップを28回（同1,151名）、川俣高校アウトリーチ活動を3回（同22名）実施した。

このうち、「あそびの劇場」は、現地のスタッフも一緒に参加して公演の合間や待ち時間に工作会や昔あそび、木のおもちゃ、折り紙、お絵かきなどを子どもたちに楽しんでもらうものである。また、人形浄瑠璃体験ワークショップは、

子どもたちに日本の伝統芸能に触れる機会を提供し、その楽しさや魅力に気づいてもらうことを目的に行われているものだが、その一環である「復活! 高倉人形プロジェクト」は、かつて郡山市日和田地区で活動し、現在は衰退してしまった人形浄瑠璃の高倉人形を復活させようというもので、子どもたちに交じり、地域の大人たちも参加している。川俣高校アウトリーチ活動は、川俣高校3年生の選択授業「子どもの発達と保育」の中で、人形劇を通じた子どもとの関わりをテーマに人形劇の指導を行うものである。

「やまびこ座・こぐま座を利用している人形劇団や現地のコーディネーター、大学生のボランティアなどにご協力をいただきながら、人形劇が子どもたちや社会に対して持つ役割を改めて見つめ直すいい機会になっています」と、矢吹さんは活動を振り返った。



人形浄瑠璃体験ワークショップを開催



積み木や折り紙など様々な遊びが体験できる「あそびの劇場」を実施

助成団体: やまびこ座・こぐま座東日本大震災復興支援プロジェクト <http://www.syaa.jp/sisetu/gekijou/index.html>



「忘れないでください」という現地の方々の声を胸に刻んで活動

子どもたちの明るい顔や元気な笑い声に接し、関係者から継続に対する感謝のお言葉を聞くと、逆にこちらが元気づけられます。やはり現地に足を運ぶことでしか見えてこないものがあります。そうしたものを北海道の皆様へ伝えていくことも使命の一つだと思っています。助成をいただくことで、継続した支援活動を行うことができます。ありがとうございました。

札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長 矢吹英孝さん(左) 同主任指導員 安田晃子さん(右)